

5.参考文献

日本観光振興協会調査 <https://www.mlit.go.jp/common/000991950.pdf>

2. 本研究中の観光列車の存在

1. ラ・マル・ド・ボア

この列車は JR 西日本が各地で運行している観光列車の 1 つであり、213 系の改造車両によって運行されるが、全車グリーン車というハイグレードな仕様となっている。JR 西日本が運行する観光列車はキハ 40 などの古い車両を改造した車両で運行されるものが多いがこの列車も同様である。JR 西日本においては各地で運行している観光列車の岡山・瀬戸内地区バージョンといった位置付けであると考えられる。他に同様の観光列車として広島県では etSETORA、山口県では〇〇のはなし、山陰 2 県ではあめつちが挙げられる。

2.DL やまぐち

SL/DL やまぐちは SL 北びわこ廃止以来、JR 西日本管内唯一の SL であり、SL が故障や整備等で走らない時でも DL での牽引で運転されており旧型客車での旅の人气が伺える。定期的に運行されている臨時列車の中では JR 西日本唯一の客車列車であるため同様の位置付けと言える列車はなく唯一無二の存在と言える。また、特に重連や特別なヘッドマークを掲出する時など、沿線の撮影地のマナーが度々問題となっており、運賃・料金収入の増収にならないにも関わらず、沿線警備のコストが嵩む点は問題であると考えられる。

3.パレオエクスプレス

パレオエクスプレスは東京から最も近い SL であることを PR しており、秩父鉄道の代名詞とも言える観光列車である。以前事故の影響により SL が長期の運用離脱を余儀なくされた時にも牽引機を電気機関車に切り替えて運行するなど重要な存在であることが窺える。秩父鉄道の HP を開いても鉄道情報や長瀬などの観光情報と同列でパレオエクスプレスの専用ページが用意されており、同社の代表格と言える観光列車にして唯一の観光列車と言えるであろう。

4.VSE

VSE はロマンスカーの名で有名になった小田急の特急列車の人气が、展望席のない通勤向け特急車両の登場により低迷していた時期に観光需要に対する起爆剤として投入された車両であり、登場以来ロマンスカーの代名詞とも言える存在である。VSE は 2023 年 12 月 10 日にツアー運行を含めたすべての運行を終えることが発表されている。定期運行終了の発表以来、その人気の高さからツアーなどはほとんど満席となっており、また昨今は毎週のように臨時運行のツアーが企画されており、小田急内での重要度も窺える。

5.北九州レトロライン

北九州レトロラインは平成筑豊鉄道の一路線という扱いではあるが、トロッコ車両での運転であり、

運行日が季節限定であることからして完全に観光目的のみで運行される路線と言える。路線自体も平成筑豊鉄道の他路線とは隔絶されている。

6.踊り子

踊り子は定期旅客列車であり、料金体系もB特急料金に位置付けられている。一方、始発列車は定期便では下りの始発は東京駅を9時出発、上りの最終は東京駅に17時49分到着であること、現在の料金体系に改定された際に熱海や小田原の乗継割引適用対象から除外されたことを踏まえると観光列車としての側面が強いことが窺える。東京を起点とする特急と比較すると中央方面のあずさかいじ、常磐方面のひたちときわは都市間輸送を主体として早朝から深夜まで運行されており性格が異なる。他方、高崎方面の特急である草津・四万とは、かなりの部分で新幹線と並行するにも関わらず運行されている点、温泉地向け特急である点、運転時間帯などで酷似しており、同様の目的で設定されている特急であると考えられる。

7.サフィール踊り子

サフィール踊り子は伊豆方面の特急列車である踊り子のハイグレードバージョンとして、同車の登場前に同様の位置付けであったスーパービュー踊り子に代わりデビューした車両である。全車グリーン車であるのみならず、通常のグリーン車より格や高いプレミアムグリーンに加え、車内で食事できるカフェテリアや多くの個室を備え、JR東日本の観光特急の中でも特にグレードの高い車両と言える。JR東日本において現在、全車グリーン車の観光特急列車は存在せず、異色の存在と言える。

(院3年 中島)

3. 観光客にとっての観光列車の存在

観光客にとって、観光列車はどのような存在なのだろうか。

一つ目は、「自分たちが行きたい観光地に向かうための交通手段の一つとしての存在」というのが考えられる。観光列車は、旅行客が観光地で行動しやすい時間に合わせた運行などが行われているため、観光客としては非常に使いやすいと思われる。踊り子号など、都心から観光地に向かう列車は特にこの要素が大きいと言える。

二つ目は、「旅行先を移動しながら感じられる存在」たることである。観光列車では、車内にその土地の観光スポットを紹介する広告を掲示されている、その地の特産物が車内で提供されている、乗務員による地域のガイドが行われるなど、移動中でありながら現地に行った気分を味わうことができる。さらに、観光地では速度を落として運行することで、列車に乗っているながら観光地を充分に見ることが出来るような工夫もなされている。こういったサービスを提供することで、観光客はその地についての理解が深まり、現地での観光をより充実したものとすることができる。

三つ目は、「非日常を感じられる空間としての存在」である。サフィール踊り子など、高級観光列車では特にこの傾向は強いと思われる。このような列車では客層を見ても、学生やファミリー層よりも社会人の方が多く、普段の仕事疲れを癒すための旅行をされている方々が主なターゲット層であると考えられる。しかし、リラックスをするための旅行でも、旅行疲れをしてしまうこともある。そういった時